

経営比較分析表（平成29年度決算）

埼玉県 鴻巣市

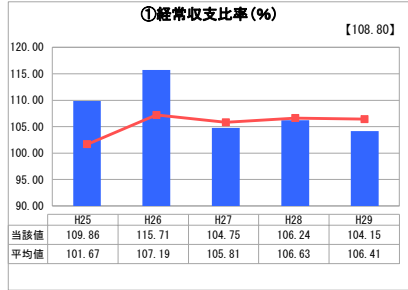
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	63.53	77.03	78.74	2,268

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
119,029	67.44	1,764.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
91,646	14.47	6,333.52

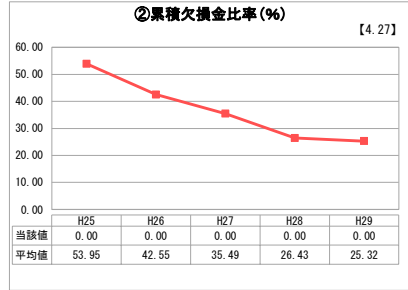
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

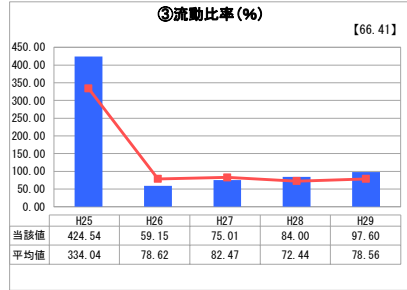
1. 経営の健全性・効率性



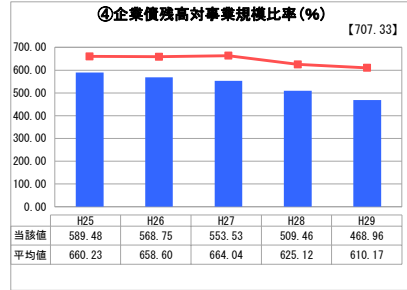
「経常損益」



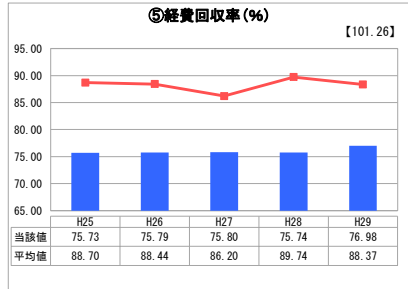
「累積欠損」



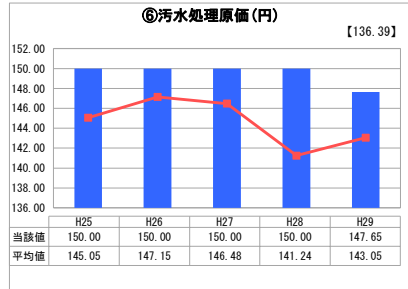
「支払能力」



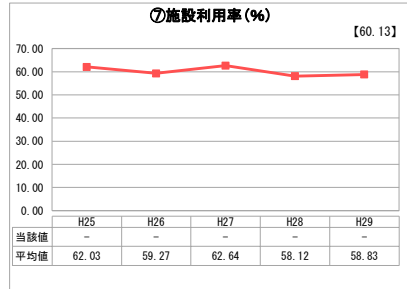
「債務残高」



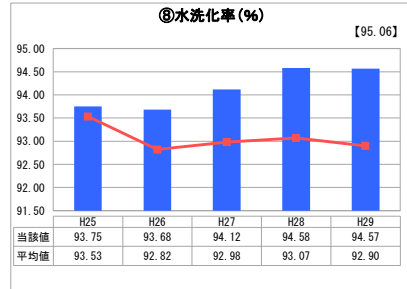
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

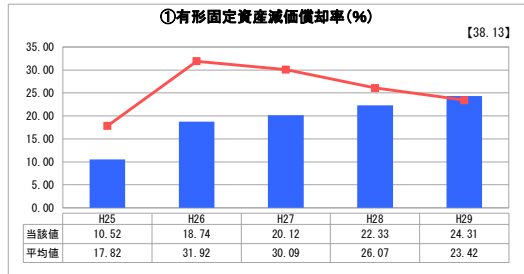


「施設の効率性」

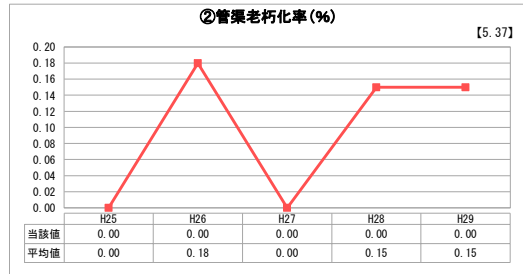


「使用料対象の捕捉」

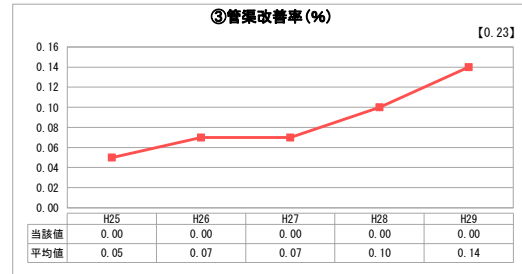
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性については、「①経常収支比率」が示すように104.15%と、経常利益が黒字となっているが「⑤経費回収率」をみると76.98%となり、本来使用料で回収すべき経費を全てまかなえていない状況である。歳入においては、水洗化率向上による使用料収入の増、歳出においては、汚水処理に係る経費の削減を推進し、経費回収率の向上に努め引き続き経営の健全性を確保する必要がある。また「③流動比率」においては97.60%で類似団体平均値78.56%をやや上回っており、また、一時借入金の実績がないことから、短期的な債務に対する支払能力については問題ない。「④企業債残高対事業規模比率」は468.96%で類似団体平均値610.17%を下回っているが、今後も計画的な投資により適正な債務残高の維持に努める必要がある。

経営の効率性については、「⑥汚水処理原価」が147.65円と1mあたりの汚水処理原価が類似団体平均値143.05円をやや上回っている。また、汚水処理原価の算定に用いる有収水量については、接続率の向上による有収水量の確保などの措置が必要となる。また、施設の効率性を示す指標として年間有収率が78.74%、「⑧水洗化率」が94.57%となっており、おおむね効率的に運用ができてはいる。「⑦施設の利用率」については、処理施設を有していないため、該当しない。

2. 老朽化の状況について

施設全体の減価償却率の状況を示す「①有形固定資産減価償却率」は24.31%となり、施設全体の老朽化が進んでいることが分かる。管渠については、「②管渠老朽化率」0%、「③管渠改善率」0%が示すように、法定耐用年数を経過した管渠は保有しておらず、管渠の更新投資・老朽化対策については実施されていない。今後はストックマネジメント策定により、更新事業が予定されていることから、適切な施設の維持管理を行いながら、所要の財源確保に努める必要がある。

全体総括

各指標を見ると類似団体平均値を下回る数値があり、引き続き、有収率や水洗化率の向上に努め、施設の効率性を確保しながら、施設の老朽化対策を計画的に進めていく必要がある。また、施設の更新事業に対する所要の財源確保のため、適正な債務残高を維持しながら水洗化率向上による使用料収入の増や適正な施設の維持管理による汚水処理費の減に努め、経常利益の確保や経費回収率の向上など、経営の健全化も併せて図ることとする。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の実績を基に類似団体平均値を算出しています。